



1 日目

なんとなく殴るのに飽きたから
なんとなく乗馬鞭で打ってみた
あまりの荒れように
動揺していたようだったけど
その動揺も
赦せない。

誰かがこの世で一番愚かな動物は
ヒトだと言ったね
でも俺にとって
やっぱりお前は豚だと思うよ。

2日目

誰でもいいってわけじゃないよ
君の肉が柔らかいってだけで。
鞭を振るっても、蠟燭垂らしても
殴って切って
血が出てもね
ただそれが柔らかいってだけで。
血が欲しくなったら、また徘徊するだけ。
喰いたくなったら餌を垂らす
腐るほど。
そうして肉が美味くなるとすら思わない
ただの肉塊。
其れだけ。

3日目

鞭なんて痛くないだろう

縄なんて、拘束力など

其の実ないだろう？

商品でもない俺もお前も

必要性なんて無い。

泣いても許してやらない。

所詮、ペットごっこなんだ。

主従なんてして居ないだろう？

だからなんだって、してやるよ。

おもちゃで遊ぼう？

ニードルでたくさん刻んでやろうか

刻んでやる価値もない。

遊んでもやらない。

嘔吐物でも犬食いしてろ

これはただのお遊戯会。

4日目

機嫌取りのつもりか？

俺の脚はお前の人彘だとでも言いたいのか

そうだなあ

其処等のマザーファッカーとでも遣ってきたら

撫でてやろうか。

5日目

悲鳴なんてつまないんだよ
泣き顔なんて見飽きてんだよ
そうして恍惚してるのも見飽きてるんだ
ニードルだけじゃ足りないだろ？
本当に狂う笑顔は何だろうな？
縫合してやろうか
舌を瓶詰だとか
王道過ぎて、そんな処理で済ますと思うなよ
何もかもが醜い。
そうそう
その懊悩の顔だよ。

6日目

出来ない方がいい垂れ流す表情
駆くことのない痛覚
それを捻じ込む事だって簡単だ。
ただそれがお前にとって幸せなら
つまらない気がするけど
俺がさせたい時もある。
ただその瞬間は虚しい。
模範でしかなく自嘲だ。
何も届いていないような
そんな感覚になる。

7日目

汚物みたいに垂れ流す痛覚
それで満足なのか？
痛みに酔って快楽として恍惚として
汚物で塗られた身体で

貴方が好きです。

だっていう。
ストップワード。

喪失

<http://p.booklog.jp/book/118166>

著者：黒耀

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/kokuyou-akr/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/118166>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト